

第 58 回 中小企業景況調査

(平成 30 年 7 月～9 月)

《 調査結果の要約 》

全業種業況は低下傾向にあるが、建設業は回復傾向にありサービス業は横ばいである。
(設備投資の取組みも低下しているが、3 カ月先は回復見通しである)

業種別にみると、下記の通りです。

3 カ月前と比べて好転 ↑ : 建設業、

3 カ月前と比べて横ばい → : サービス業

3 カ月前と比べて悪化 ↓ : 製造業、小売業 (最寄品)、小売業 (買回品)、飲食業

1. 全業種の業況判断D Iは▲20.9 (前期比▲17.3 ポイント) と低下傾向にあるものの、3 カ月先は +11.8 ポイントと回復見通しとなっています。
2. 設備投資件数は 20 件 (3 カ月前に比べて▲4 件) となっています。その上位内訳は機械設備 11 件、OA機器 5 件、車両運搬具 3 件、建物 1 件となっています。
3. 経営上の問題点 (回答社数に対する比率) は、①需要の停滞 23% (48 社) が最も多く、②単価の低下・上昇難 17% (35 社)、③利用者ニーズの変化 16% (33 社)、④人件費の増加 14% (29 社) ⑤人件費以外の経費の増加 10% (21 社) が続いています。

<国内および神奈川県の中企業の景況トピックス>

・全国の中企業の景況は、緩やかな改善基調の中にも一服感がみられる。

(1) 2018 年 7～9 月の全産業の景況判断D Iは、▲15.6 (前期差 1.6 ポイント減) となり、2 期連続して低下しています。

(2) 製造業の景況判断D Iは、▲10.5 (前期差 2.0 ポイント減) となり、2 期ぶりに低下しています。業種別に見ると、印刷、木材・木製品、繊維工業の 3 業種で上昇し、鉄鋼・非鉄金属、窯業・土石製品、パルプ・紙・紙加工品、電気・情報通信機械器具・電子部品、家具・装備品、機械器具の 6 業種で低下しています。

非製造業の業況判断D Iは、▲17.2 (前期差 1.3 ポイント減) と 2 期連続で低下しています。

産業別に見ると、卸売業で上昇し、小売業で横ばい、建設業、サービス業で低下しています。

・神奈川県中企業の総合景況判断D Iは、前期比 1.1 ポイント低下の▲17.0 となっています。経営状況では、売上D Iは前期比 2.9 ポイント上昇の▲12.9、採算D Iは前期比 1.4 ポイント低下の▲22.1 となっています。今後の業況D Iを見ると、3 ヶ月後は現在比 1.2 ポイント低下の▲18.2、半年後は 4.4 ポイント低下の▲21.4 を見込んでいます。

《 調査概要 》

1. 調査時点：平成 30 年 10 月現在
2. 調査件数：鎌倉市内の中小企業、特に小規模企業（製造業・建設業・小売業（最寄品）・小売業（買回品）・飲食業・サービス業）の中から 163 社を抽出しました。

	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業	合計
			最寄品	買回品			
調査件数	16	16	26	29	41	35	163
回答数	11	10	21	20	21	27	110
回答率	68.8%	62.5%	80.8%	69.0%	51.2%	77.1%	67.5%

3. 調査方法：郵送によるアンケート方式（一部経営指導員による聞き取り）
4. 調査項目：
 - (1) D I の状況について
 - ① 自社の状況 ② 売上額 ③ 資金繰り ④ 採算 ⑤ 従業員数
 - (2) 設備投資について
 - (3) 経営上の問題について
5. 調査データについて
 - (1) D I : Diffusion Index（ディフュージョンインデックス・景気動向指数）の略
各調査項目について、「増加」「好転」したとする企業割合から「減少」「悪化」したなどとする企業割合を指し引いた数値で、企業の景況感の判断に使用する指数。
 - (2) データは当該期間（四半期ごと）と、その前年同期および向こう 3 ヶ月の見通しを対比したものです。
 - ・四半期：1 年の 4 分の 1、すなわち「3 ヶ月間」
 - ・前期比：3 ヶ月前との比較
 - ・前年同期比：1 年前との比較

< D I 計算例 >

「やや増加」「やや好転」50%、「変わらず」20%、「やや悪い」「やや減少」30%の場合、次の様な計算となります。

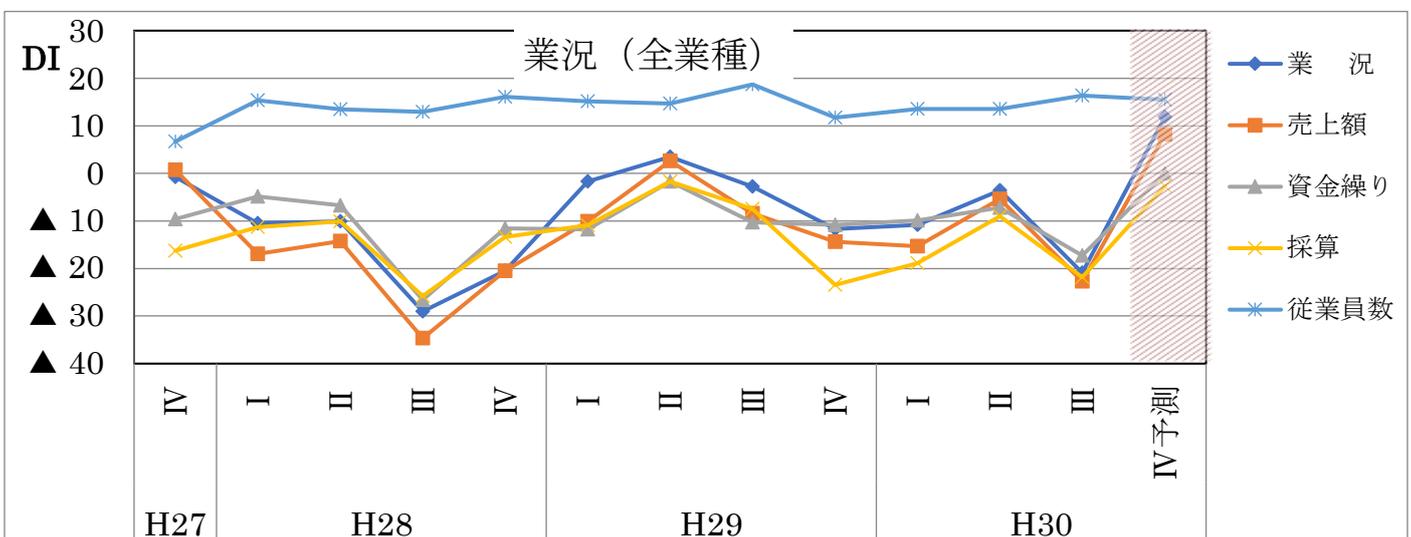
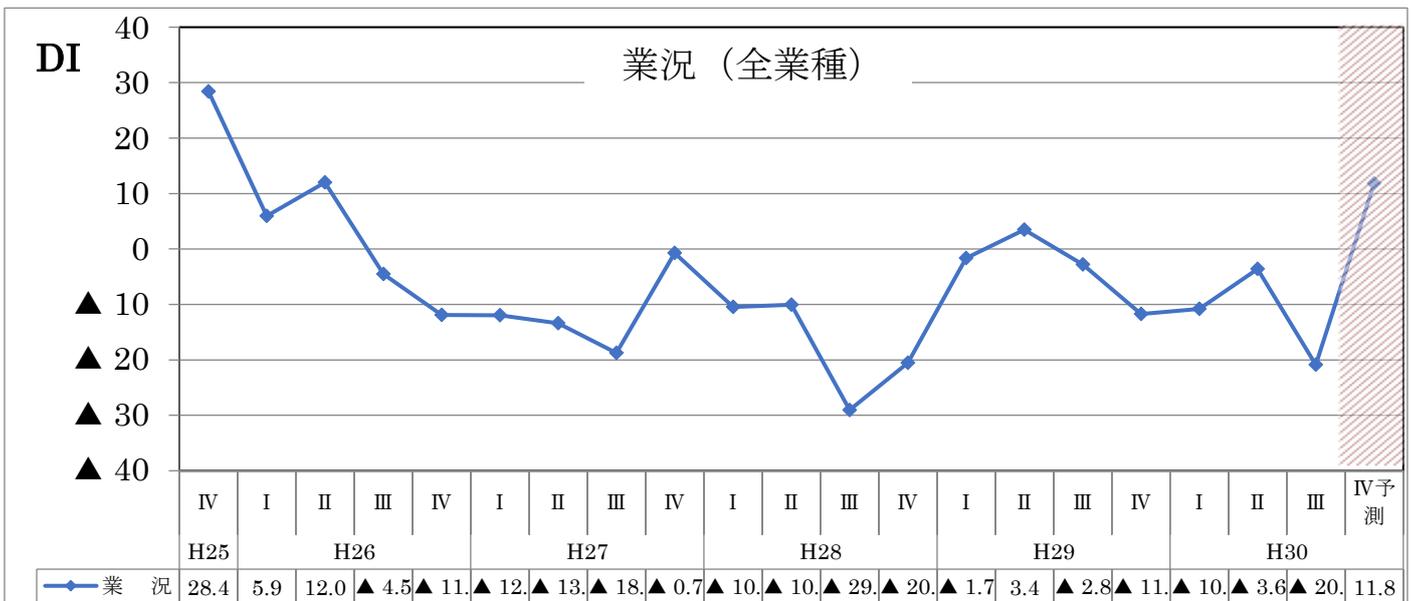
$$\begin{aligned}
 \text{D I} &= +50 - 30 \\
 &= +20
 \end{aligned}$$

《 調査結果 》

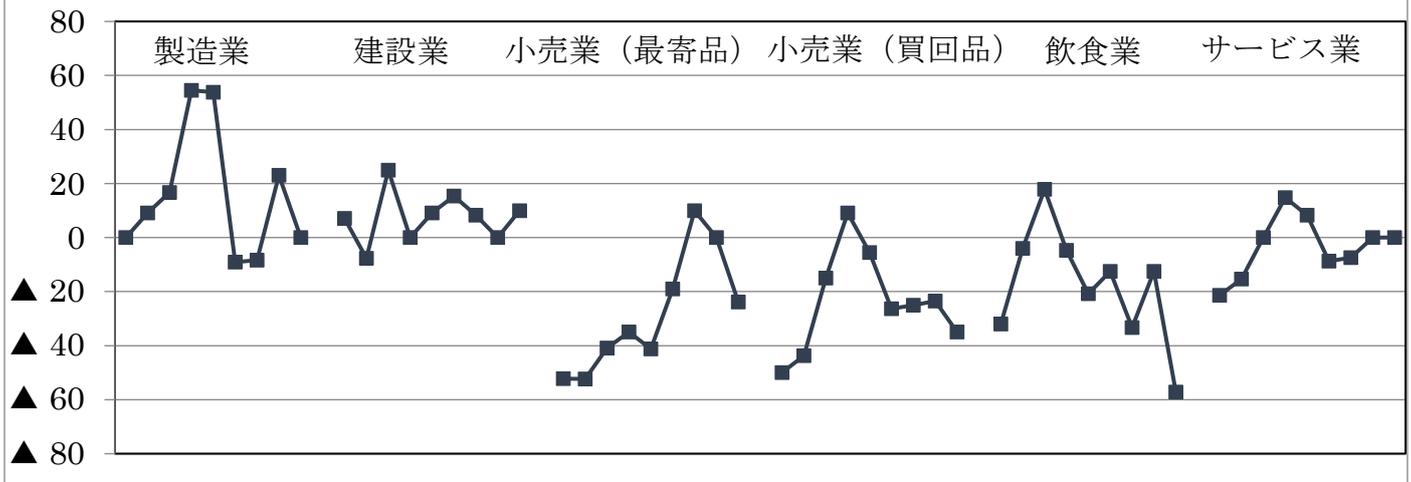
I. 全業種

□業況D I

- ・全業種の業況判断D Iは、▲20.9（前期比▲17.3ポイント）と低下傾向にあるものの、3ヶ月先は11.8ポイントと回復の見通しとなっています。
 - ・売上D Iは、▲22.7（前期比▲17.3ポイント）と低下傾向にあるものの、3ヶ月先は8.2ポイントと回復の見通しとなっています。
 - ・資金繰りD Iは、▲17.3（前期比▲10.1ポイント）と低下傾向にあるものの、3ヶ月先は±0.0ポイントと回復の見通しとなっています。
 - ・採算D Iは、▲21.8（前期比▲12.8ポイント）と低下傾向にあるものの、3ヶ月先は▲2.7ポイントとマイナスが圧縮される見通しとなっています。
 - ・従業員数D Iは、+16.4（前期比+2.9ポイント）と更に人手不足が拡大傾向にあるものの、3ヶ月先は+15.5ポイントと若干改善する見通しです。
- ・業種別の業況判断D Iは、前期比で建設業が改善し、サービス業が横ばい、製造業、小売業（最寄品）、小売業（買回品）、飲食業で悪化しています。



業種別 業況判断DIの推移 (H 28年7-9月期~H 30年7-9月期)

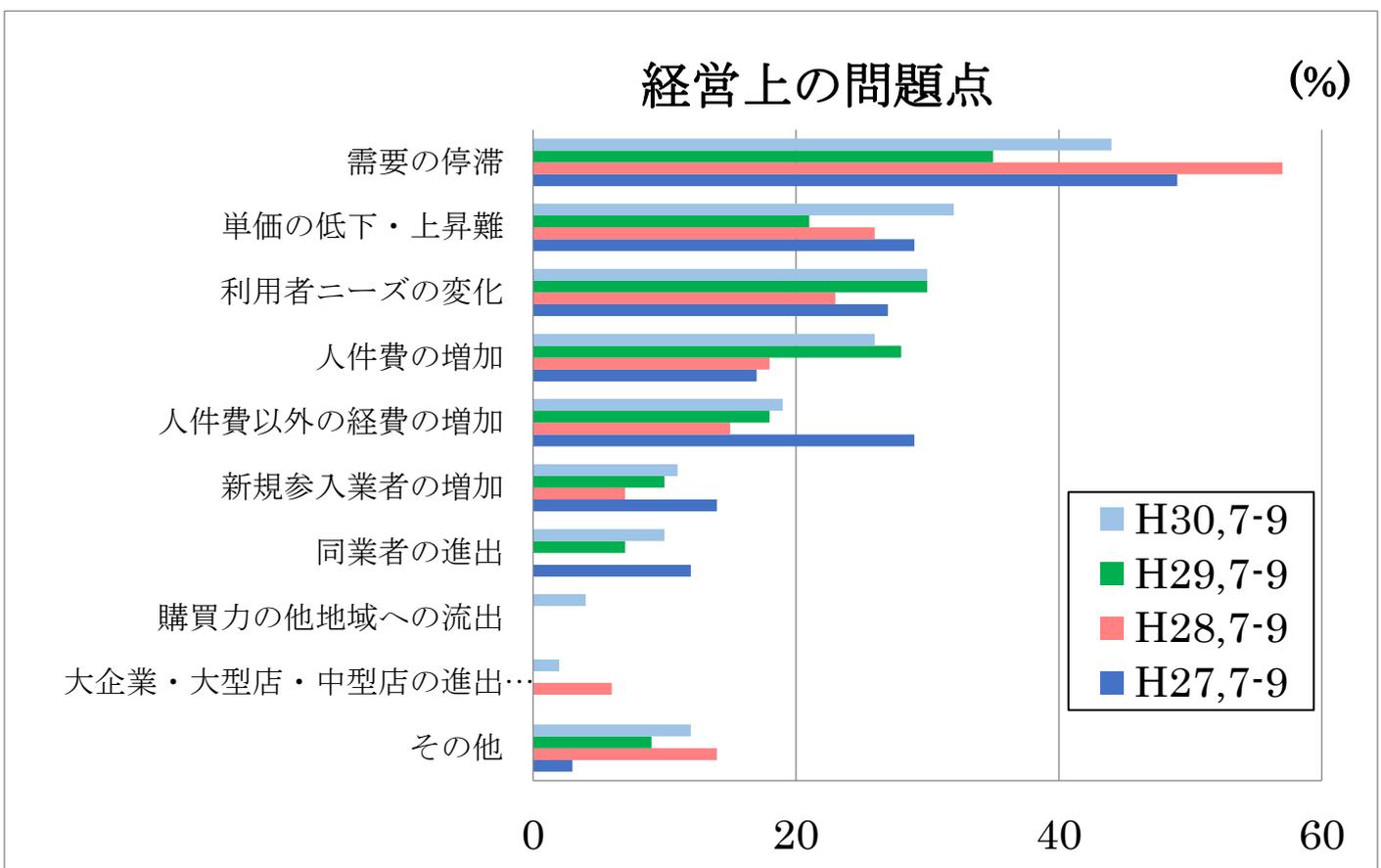


□設備投資の動向

- ・設備投資件数は 20 件（前期比▲4 件）となっています。その上位内訳は機械設備 11 件、OA機器 5 件、車両運搬具 3 件、建物 1 件です。

□経営上の問題点

- ・経営上の問題点（回答社数に対する比率）は、①需要の停滞 23%（48 社）が最も多く、②単価の低下・上昇難 17%（35 社）、③利用者ニーズの変化 16%（33 社）、④人件費の増加 14%（29 社）⑤人件費以外の経費の増加 10%（21 社）が続いています。

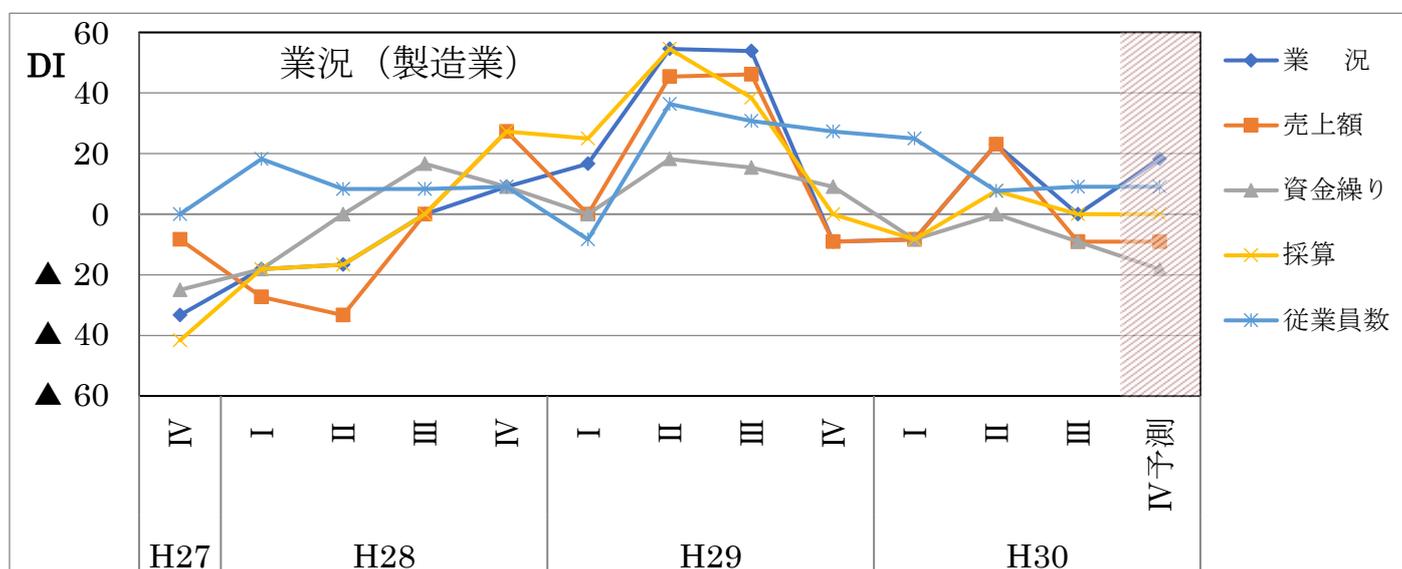


II. 業種別

1. 製造業

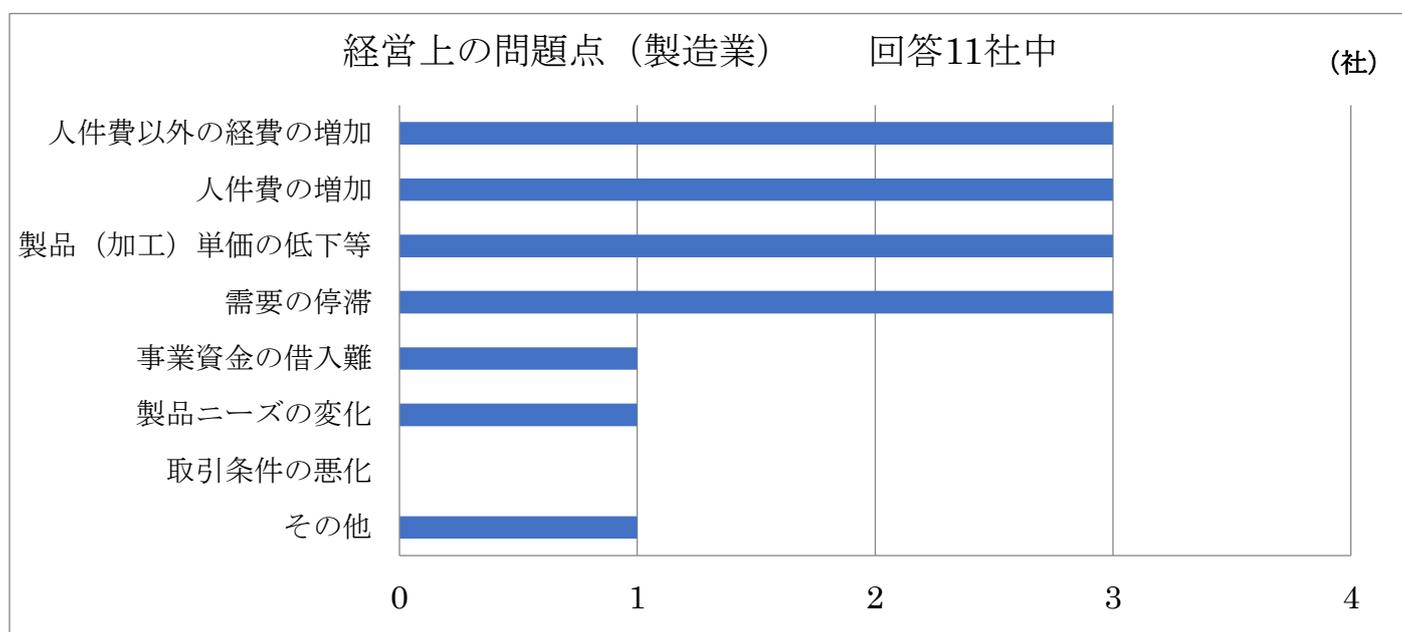
□業況D I

- ・業況判断D Iは、±0.0（前期比▲23.1ポイント）と大幅な低下となっていますが、3ヶ月先は+18.2ポイントと大幅な上昇の見通しです。
- ・売上D Iは、▲9.1（前期比▲32.2ポイント）と大幅な低下となっていますが、3ヶ月先も▲9.1ポイントと横ばいの見通しです。
- ・資金繰りD Iは、▲9.1（前期比▲9.1ポイント）と低下していますが、3ヶ月先は▲18.2ポイントと更にマイナス幅が拡大する見通しです。
- ・採算D Iは、±0.0（前期比▲7.7ポイント）と低下していますが、3ヶ月先も±0.0ポイントと横ばいの見通しです。
- ・従業員数D Iは、+9.1（前期比+1.4ポイント）で若干人手不足が拡大していますが、3ヶ月先も+9.1ポイントと横ばいの見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数は、OA機器 1 件、機械設備 2 件です。

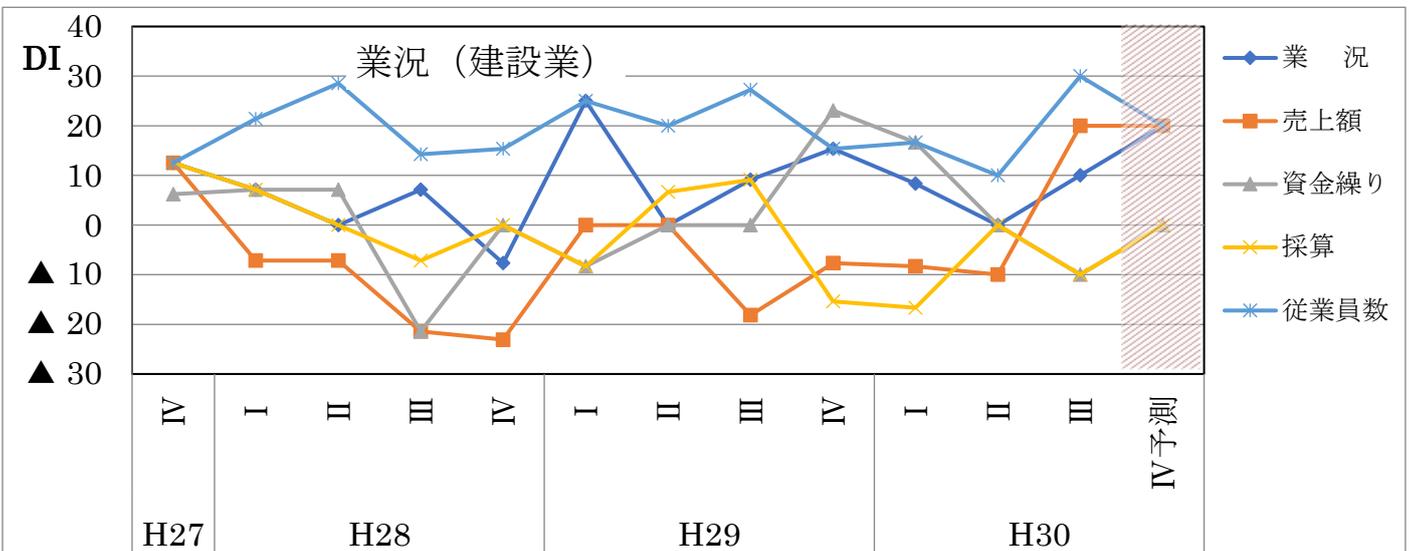
□経営上の問題点



2、建設業

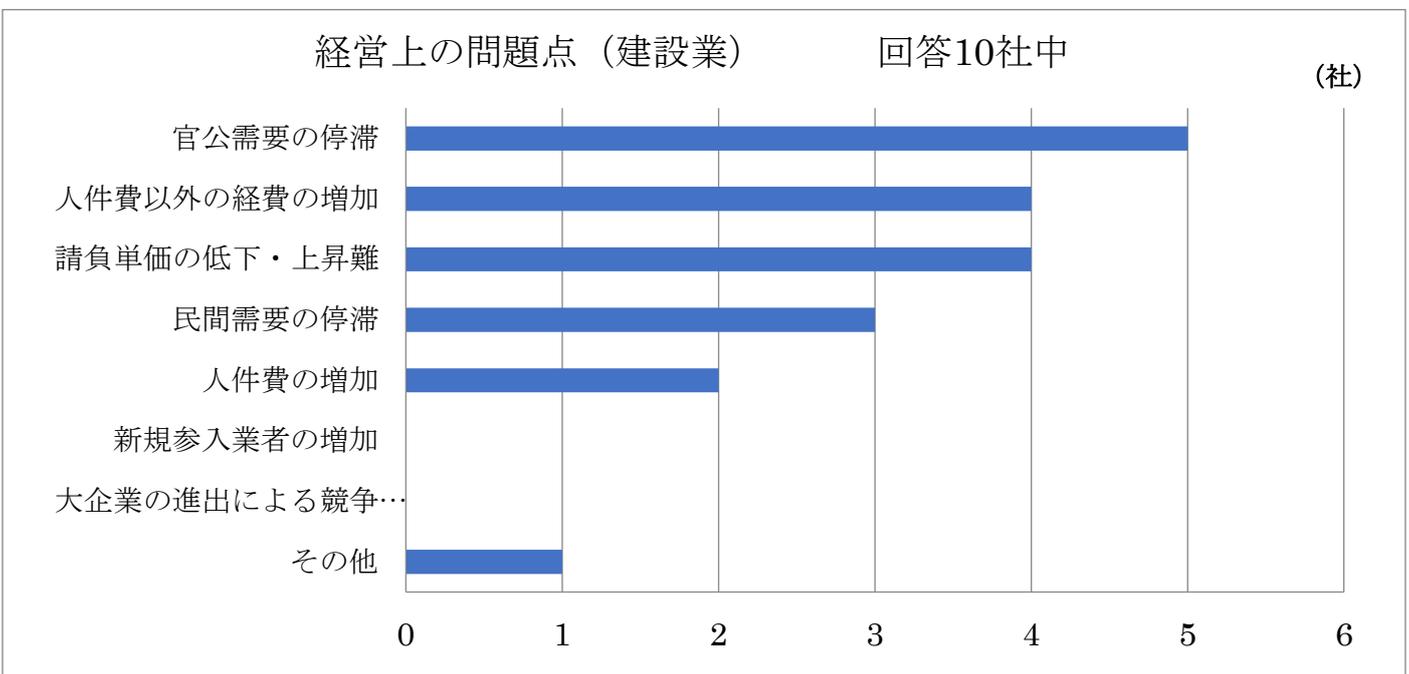
□業況D I

- ・景況判断D Iは、+10.0（前期比+10.0ポイント）で改善が進んでいますが、3ヶ月先は+20.0ポイントで更に大幅な改善が進む見通しです。
- ・売上D Iは、+20.0（前期比+30.0ポイント）と大幅な改善が進んでいますが、3ヶ月先も+20.0ポイントで横ばいが続く見通しです。
- ・資金繰りD Iは、▲10.0（前期比▲10.0ポイント）で減少しているものの、3ヶ月先も±0.0ポイントで改善が進む見通しです。
- ・採算D Iは、▲10.0（前期比▲10.0ポイント）で減少しているものの、3ヶ月先は±0.0ポイントで改善が進む見通しです。
- ・従業員数D Iは、+30.0（前期比+20.0ポイント）で人手不足が進んでいますが、3ヶ月先は+20.0ポイントで若干人手不足も改善する見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数は、機械設備 1 件、車両運搬具 1 件です。

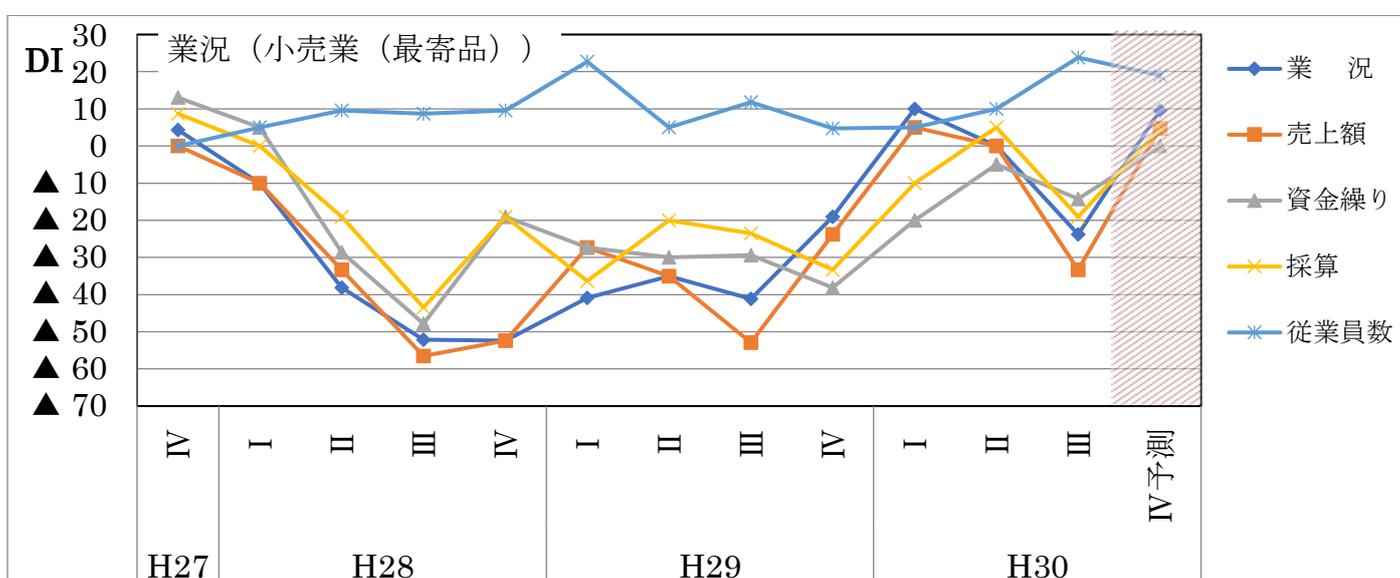
□経営上の問題点



3. 小売業（最寄品）

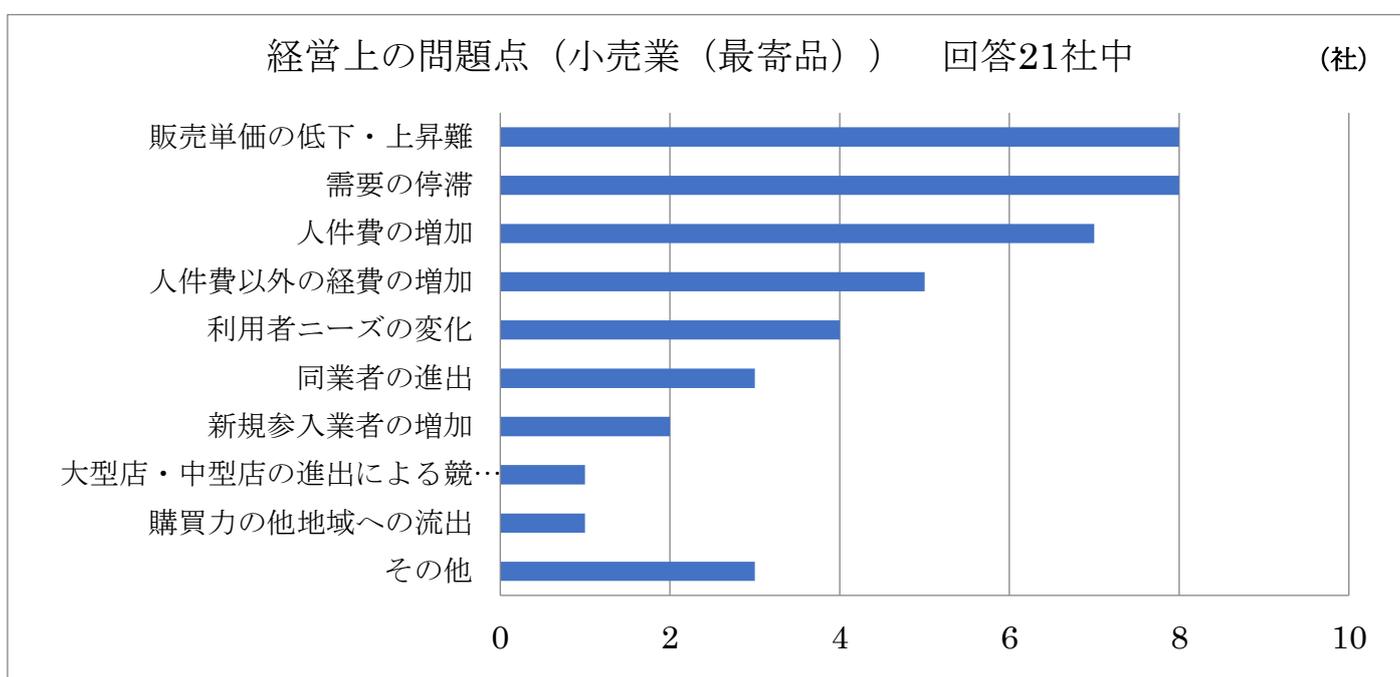
□業況D I

- ・景況判断D Iは、▲23.8（前期比▲23.8ポイント）と大幅に低下していますが、3ヶ月先は+9.5ポイントで改善が進む見通しです。
- ・売上D Iは、▲33.3（前期比▲33.3ポイント）と大幅に低下していますが、3ヶ月先は+4.8ポイントと改善が進む見通しです。
- ・資金繰りD Iは、▲14.3（前期比▲9.3ポイント）と低下していますが、3ヶ月先は±0.0ポイントと改善が進む見通しです。
- ・採算D Iは、▲19.0（前期比▲24.0ポイント）と大幅に低下していますが、3ヶ月先は+4.8ポイントとマイナスからプラスに転じる見通しです。
- ・従業員数D Iは、+23.8（前期比+13.8ポイント）と人手不足が拡大していますが、3ヶ月先は+19.0ポイントと若干改善が進む見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数は、OA機器 1 件、機械設備 2 件です。

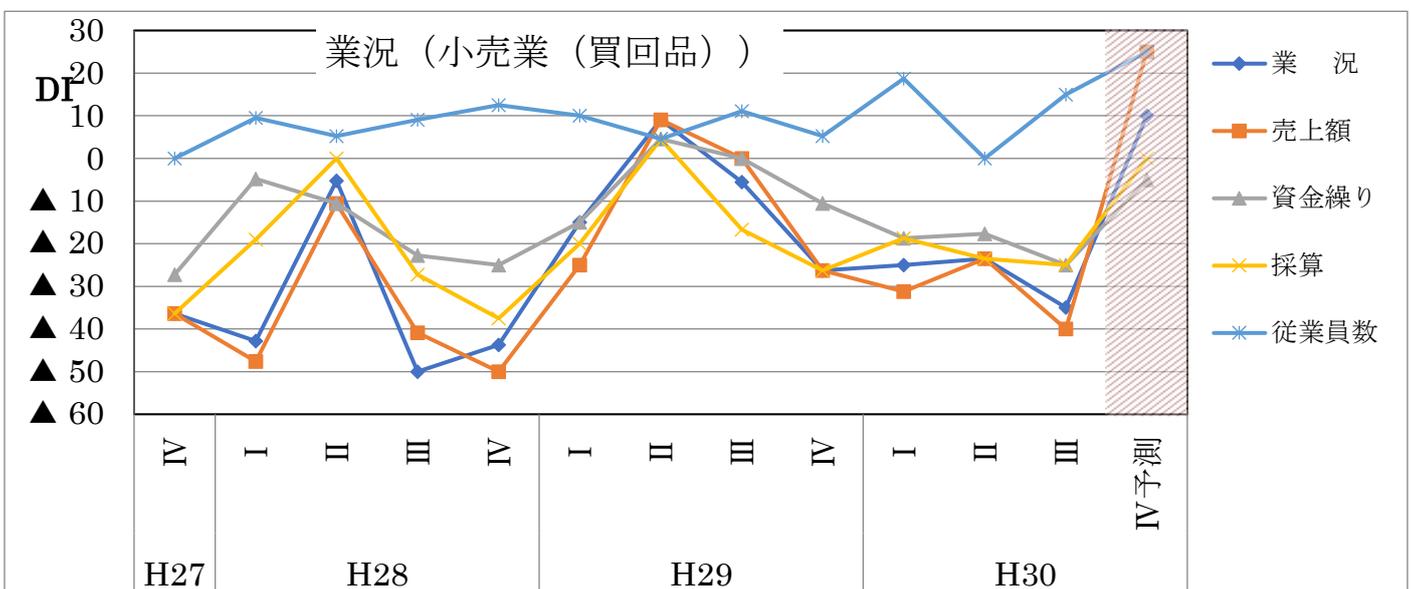
□経営上の問題点



4、小売業（買回品）

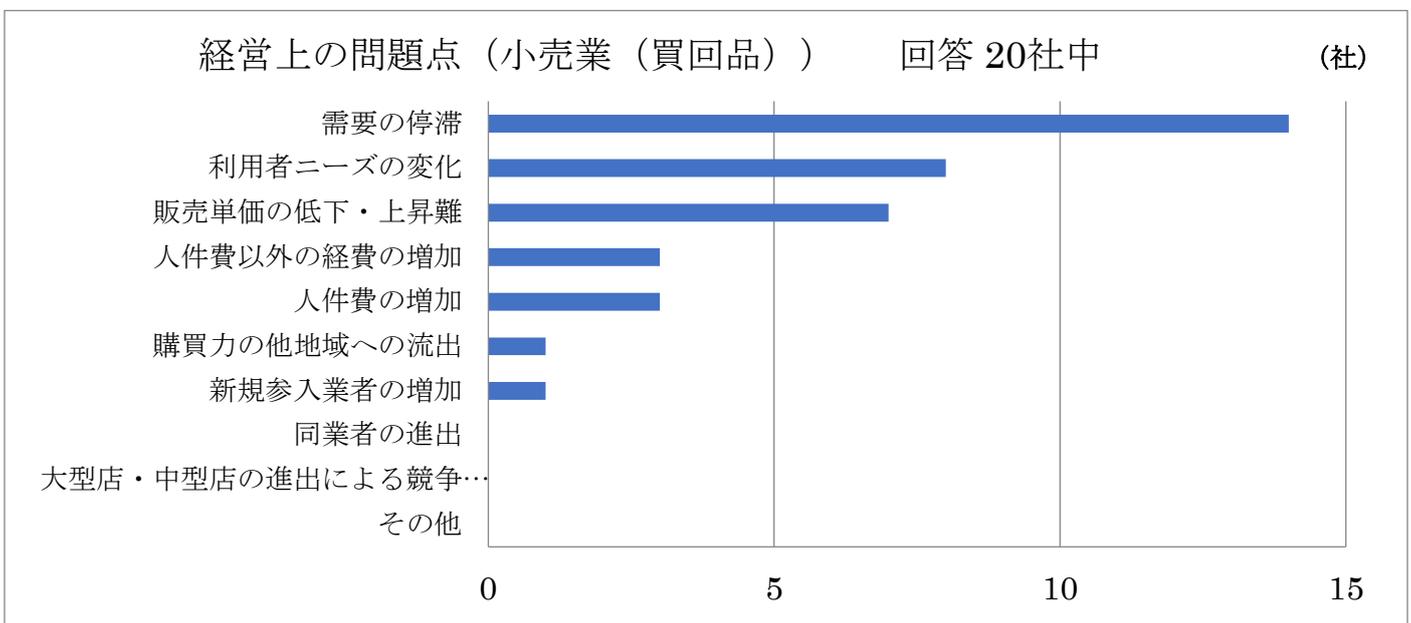
□業況D I

- ・業況判断D Iは、▲35.0（前期比▲11.5ポイント）でマイナスが拡大していますが3ヶ月先は+10.0ポイントでマイナスからプラスに転じる見通しです。
- ・売上D Iは、▲40.0（前期比▲16.5ポイント）でマイナスが拡大していますが、3ヶ月先は+25.0ポイントでマイナスからプラスに転じる見通しです。
- ・資金繰りD Iは、▲25.0（前期比▲7.4ポイント）でマイナスが拡大していますが、3ヶ月先は▲5.0ポイントでマイナス幅は大幅に縮小する見通しです。
- ・採算D Iは、▲25.0（前期比▲1.5ポイント）でマイナスが若干拡大していますが、3ヶ月先は±0.0ポイントでマイナス幅は大幅に縮小する見通しです。
- ・従業員数D Iは、+15.0（前期比+15.0ポイント）で人手不足が拡大していますが、3ヶ月先は+25.0ポイントで更に人手不足が拡大する見通しです。



□設備投資の動向 設備投資件数は、機械設備 4 件です。

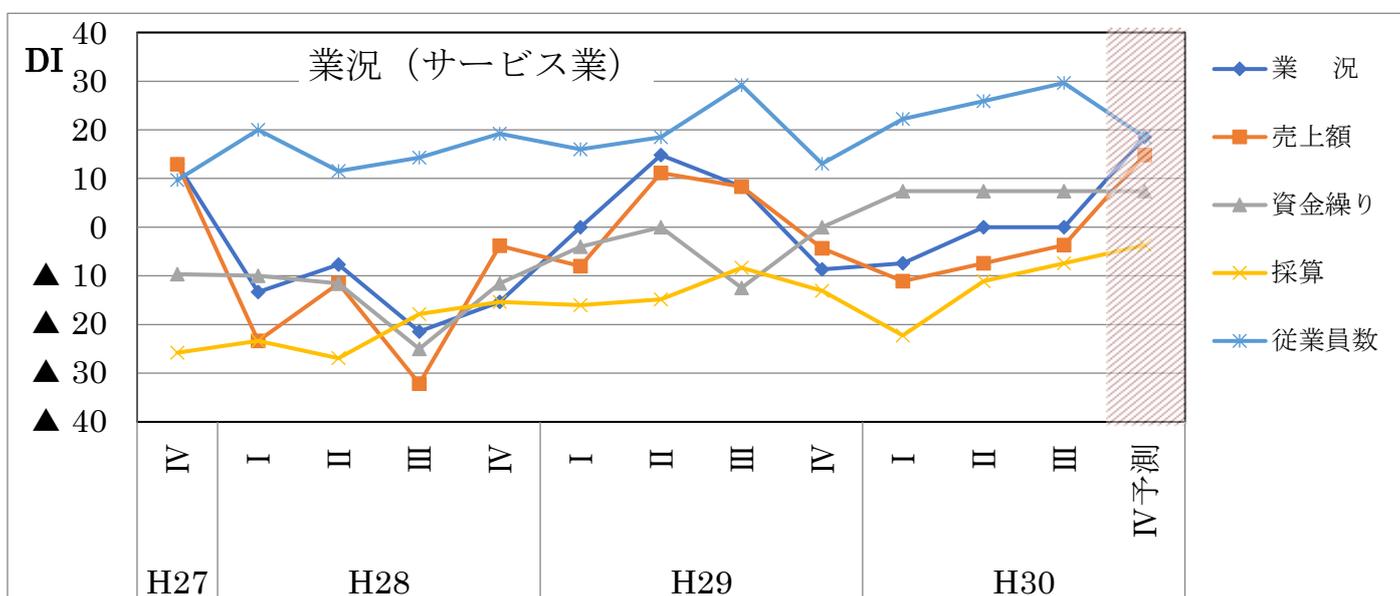
□経営上の問題点



6、サービス業

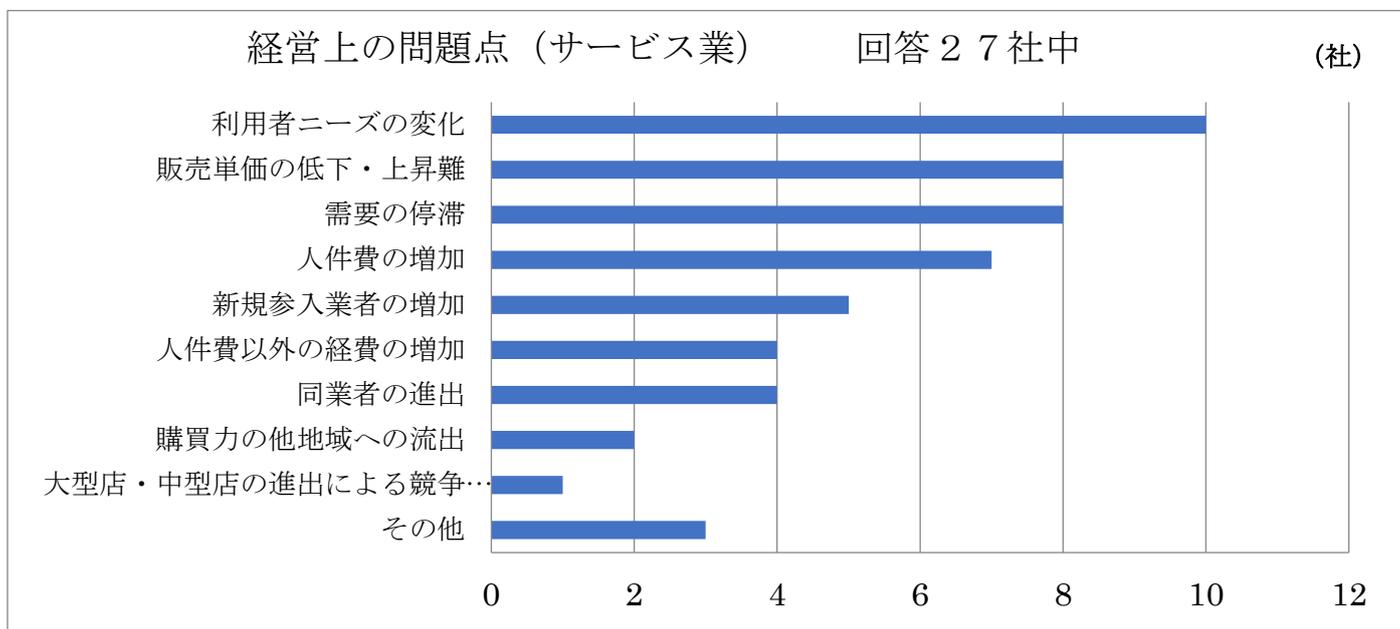
□業況D I

- ・業況判断D Iは、±0（前期比±0 ポイント）と横ばいが続いています、3ヶ月先は+18.5 ポイントとプラスに転じる見通しです。
- ・売上D Iは、▲3.7（前期比+3.7 ポイント）と改善が進んでいますが、3ヶ月先も+14.8 ポイントでマイナスからプラスに転じる見通しです。
- ・資金繰りD Iは、+7.4（前期比±0 ポイント）で現状維持となっています、3ヶ月先も+7.4 ポイントで横ばいが続く見通しです。
- ・採算D Iは、▲7.4（前期比+3.7 ポイント）とマイナス幅が縮小しているが、3ヶ月先は▲3.7 ポイントとマイナス幅が更に縮小する見通しです。
- ・従業員数D Iは、+29.6（前期比+3.7 ポイント）と人手不足が拡大していますが、3ヶ月先は+18.5 ポイントとなり人手不足が若干改善する見通しです。

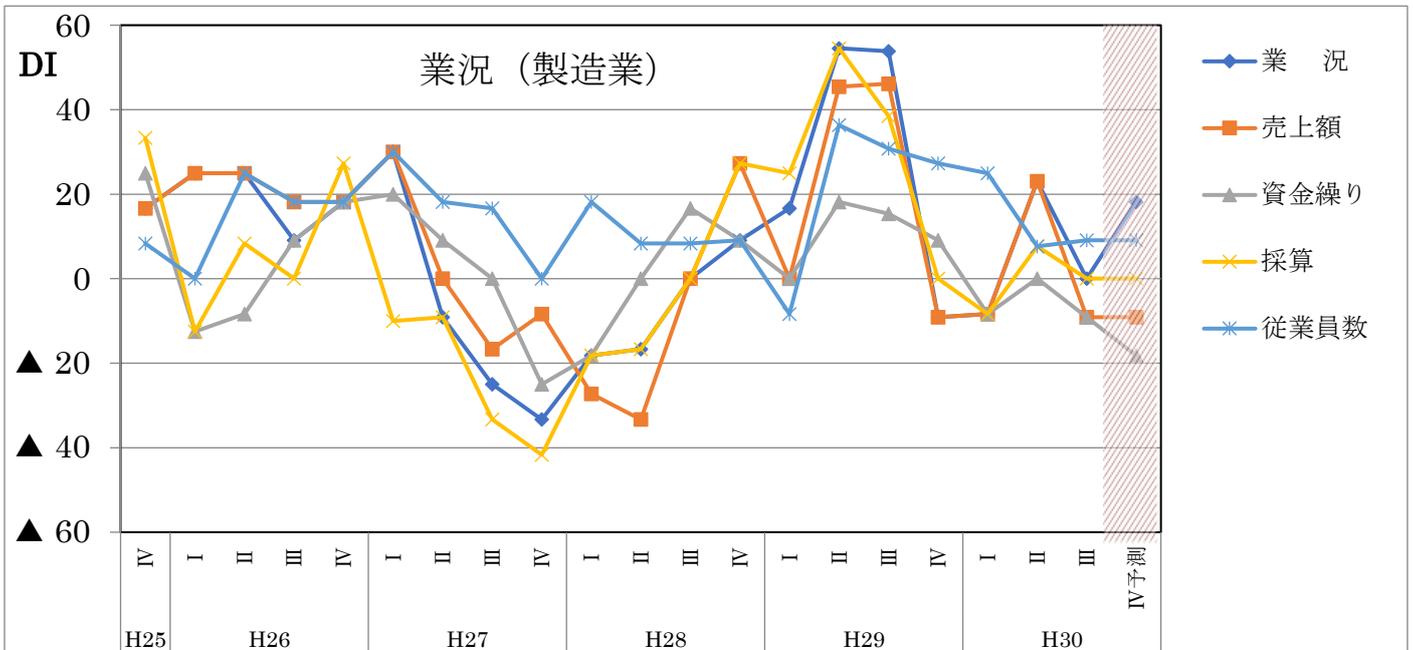
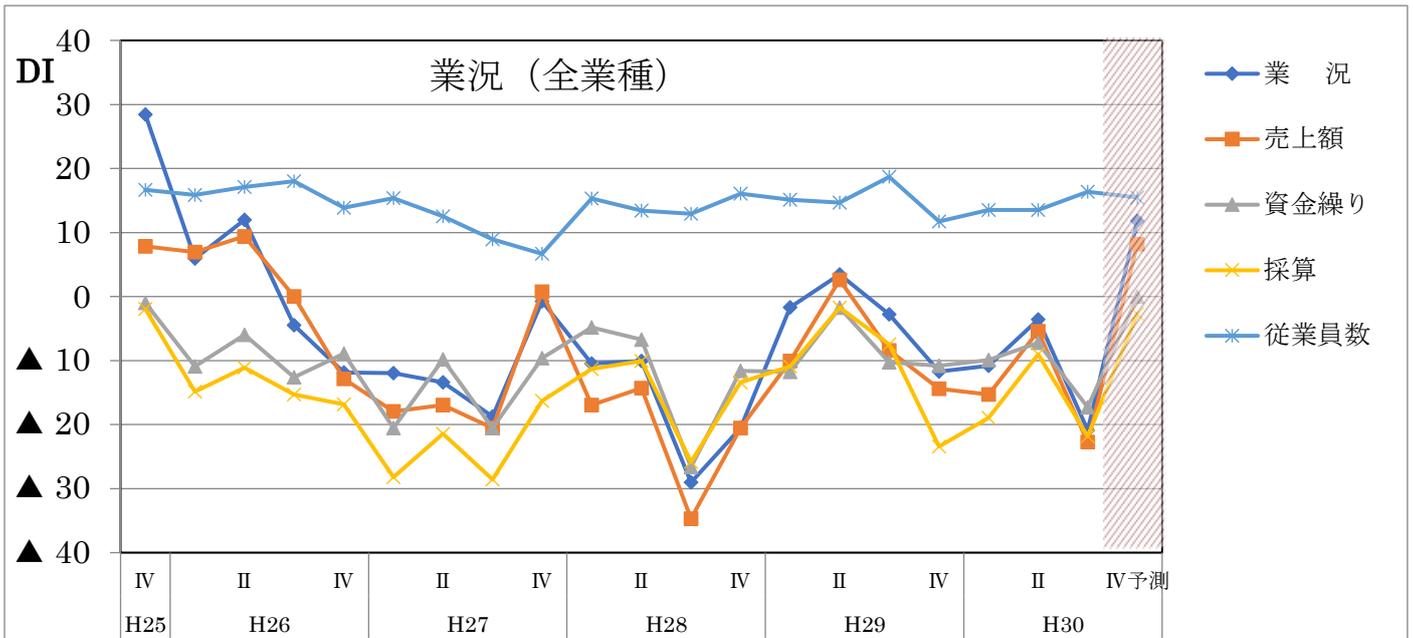


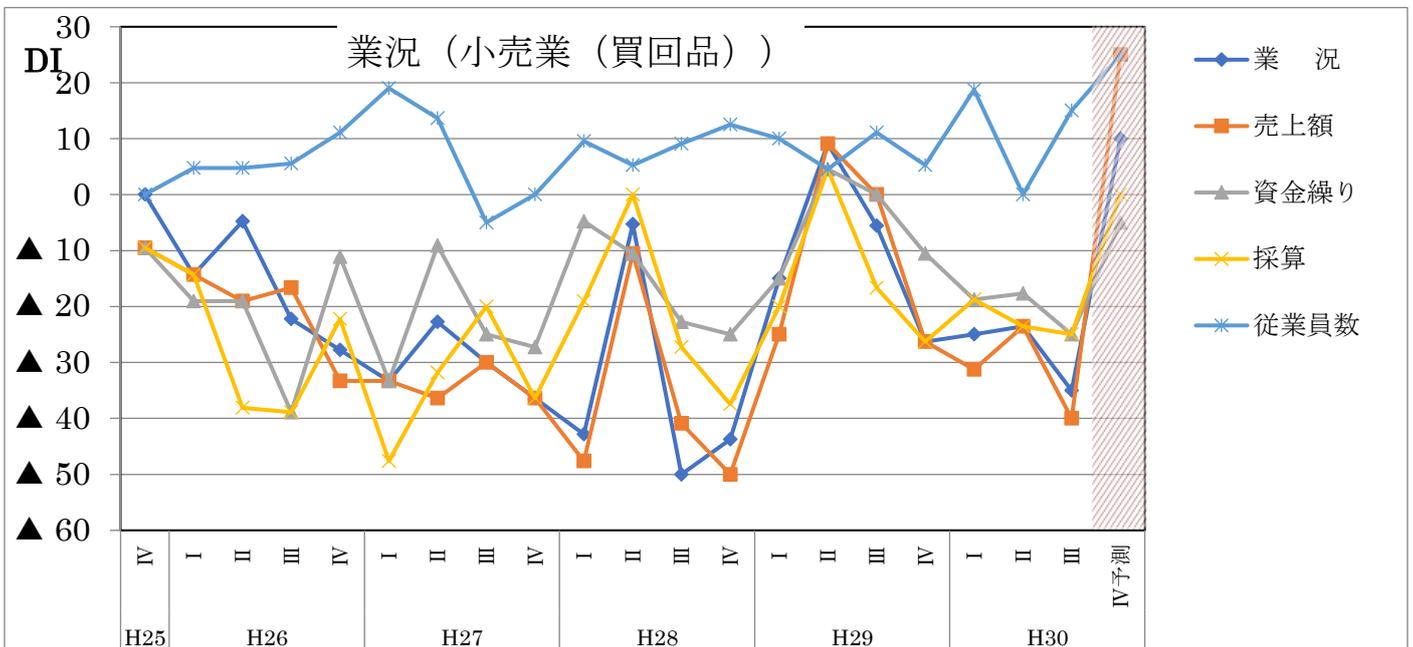
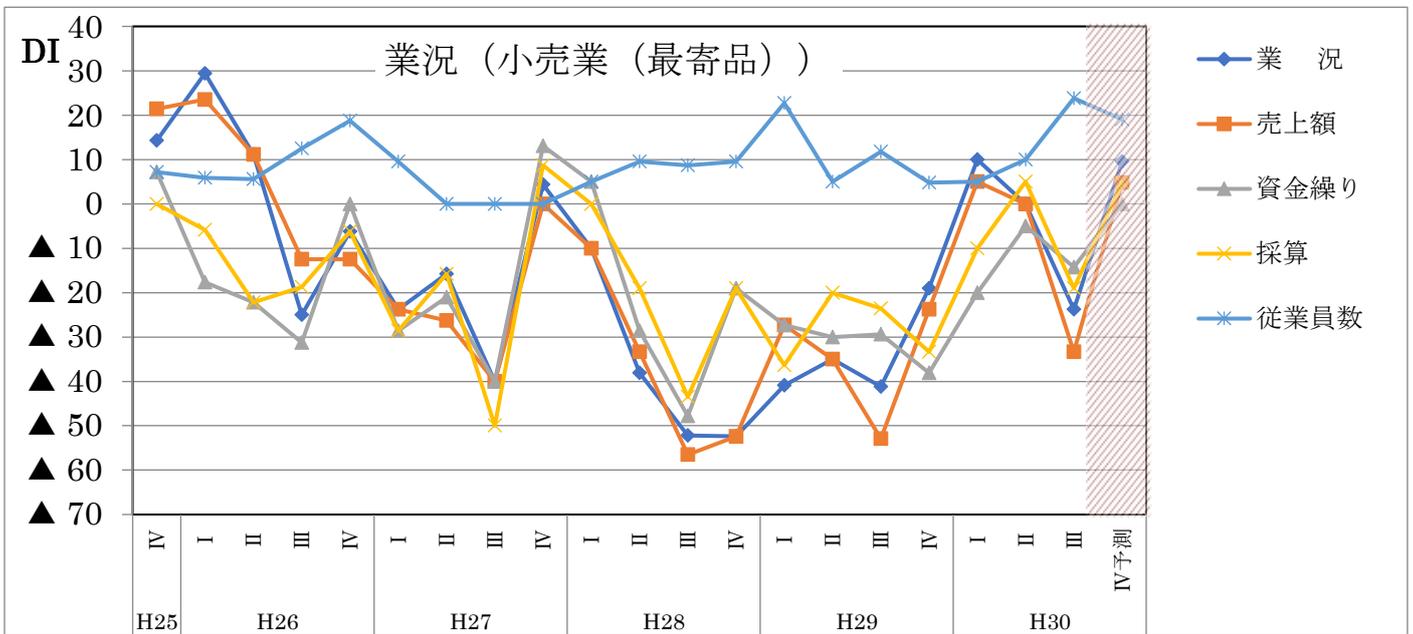
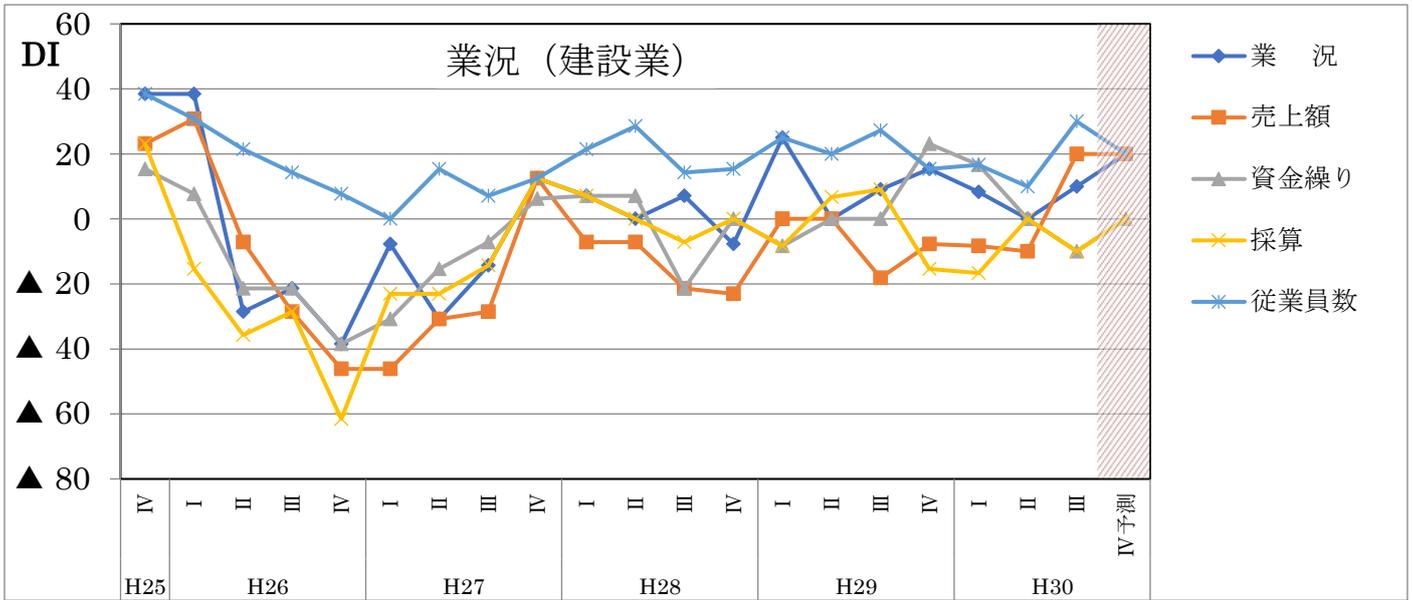
□設備投資の動向 説投資件数は、OA機器 2 件、車両運搬具 1 件、建物 1 件です。

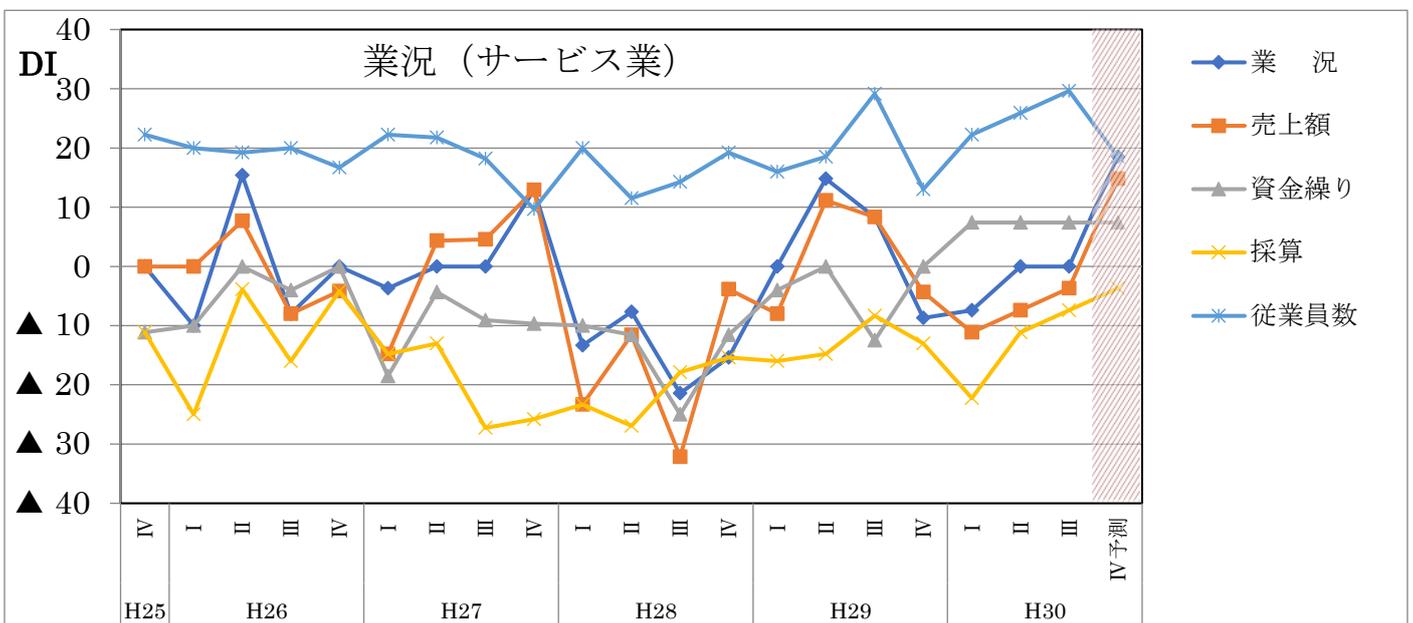
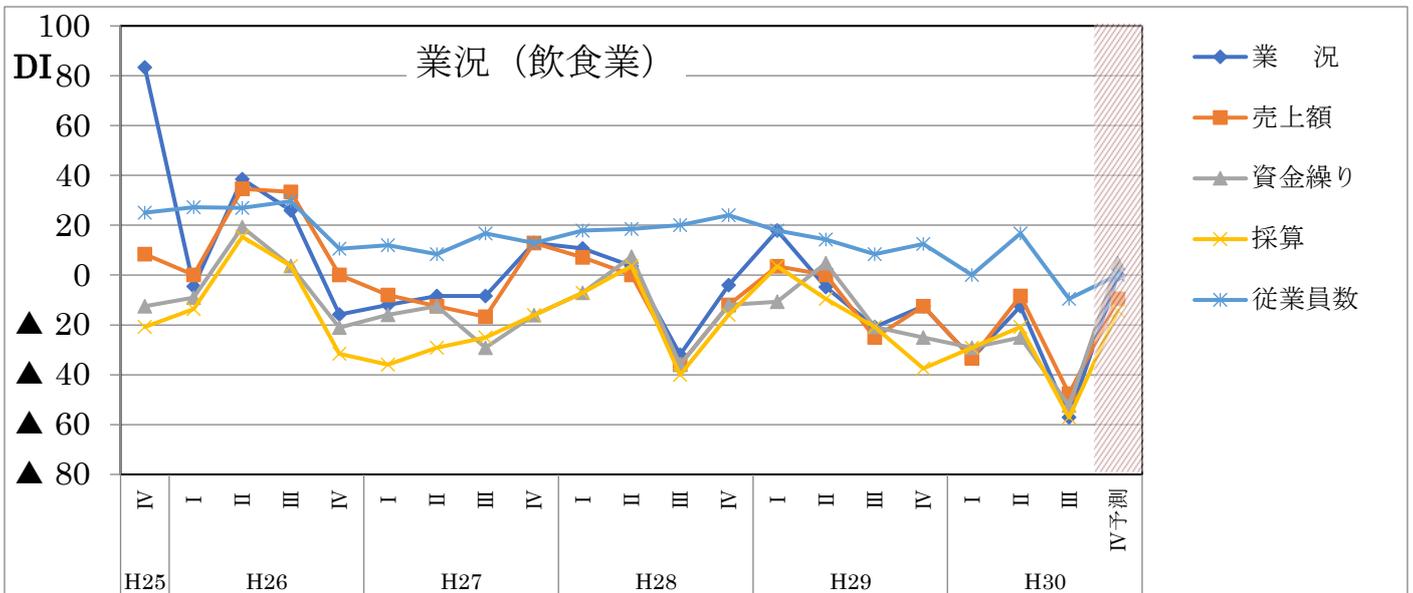
□経営上の問題点



《資料》5年分の推移







□設備投資

全業種	H25					H26					H27					H28					H29					H30				
	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
OA機器	7	14	15	8	6	6	3	6	6	9	12	6	9	6	11	3	6	6	9	5	5									
機械設備	4	3	8	8	7	3	3	4	5	3	4	6	6	6	6	8	6	5	6	11	3									
車輛運搬具	4	11	6	6	6	8	7	5	5	7	5	8	5	1	6	5	5	1	3	3	3									
建物	2	4	5	5	6	8	6	6	5	3	4	5	5	4	4	5	5	3	6	1	3									
その他	1	1	3	2	0	2	2	1	1	2	4	2	0	0	4	1	3	1	0	0	1									

製造業	H25					H26					H27					H28					H29					H30				
	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
OA機器	2	4	4	2	1	1	0	3	3	0	1	2	2	1	0	1	0	0	1	1	1									
機械設備	0	1	1	1	2	1	0	0	0	1	1	0	2	0	1	2	1	2	0	2	1									
車輛運搬具	1	1	0	1	1	1	1	1	2	2	0	2	1	0	2	1	0	0	1	0	0									
建物	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	0	1									
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0									

